



CE 9.3
Cisco TelePresence
DX70、DX80
ユーザ ガイド

目次

このユーザ ガイドの内容

はじめに

Cisco DX70 の説明	4
このユーザ ガイドについて	4
Cisco DX80 の説明	5
DX80 と USB ヘッドセット	5
Bluetooth ヘッドセットとのペアリング	6
自分のクレデンシャルでログインする	7
エクステンション モビリティについて	7

ビデオ コール

連絡先リストから発信する	9
連絡先のリストについて	9
発信前に連絡先を編集する	10
エントリの編集について	10
名前、電話番号、またはアドレスを使用して発信する	11
発信について	11
着信コール	12
着信があった場合	12
通話中に別の通話に応答する	13
オプションについて	13
通話の切断	14
切断について	14
通話を保留にする/保留中の通話を再開する	15
保留について	15
対応中の通話を転送する	16
転送について	16
帯域を変更する	17
帯域について	17
[応答不可 (Do Not Disturb)] を有効化する	18
応答不可について	18
すべての通話の自動転送	19
通話の転送について	19
通話中にキーパッドを表示する	20
通話中のキーパッドの使用	20
既存の通話に参加者を追加する	21
ビデオ会議について	21

会議から参加者を切断する	22
ビデオ会議について	22

Intelligent Proximity

Intelligent Proximity	24
プロキシミティについて	24

コンテンツ共有

通話でコンテンツを共有する	26
コンテンツの共有について	26
通話中にプレゼンテーション レイアウトを変更する	27
プレゼンテーション レイアウトについて	27

予定された会議

予定された会議に参加する	29
会議への参加	29

連絡先

[お気に入り (Favorites)], [発信履歴 (Recents)], [ディレクトリ (Directory)]	31
連絡先リストについて	31
通話中に [お気に入り (Favorite)] に追加する	32
お気に入りについて	32
非通話時に [お気に入り (Favorite)] に追加する	33
この機能について	33

カメラ制御

自画面のオン/オフの切り替え	35
自画面を使用する理由	35
自画面 PiP の移動	36
自画面を移動する理由	36
遠端カメラ制御	37
カメラ操作について	37

設定

アクセス可能な設定の概要	39
設定について	39

目次の各行はすべてアクティブなハイパーリンクになっており、対応する項目に移動できます (javascript 対応の読み取りシステムのみ)。

サイドバーのアイコンをクリックして章を移動することもできます。

注: このユーザ ガイドで説明する機能のいくつかは、特定の市場ではオプションであるため、ご使用のシステムには該当しない場合があります。



はじめに

はじめに Cisco DX70 の説明

PC モニタとして使用します。HDMI ケーブルを使用して、PC の HDMI 端子に接続します (下図参照)。

画面をタップするだけで、PC モニタとビデオ画面を切り替えることができます。

着信コールは、応答不可を有効にしていない限り、PC モードかビデオ モードかを問わず、通常通り表示されます (詳細は [「\[\[応答不可 \(Do Not Disturb\)\] を有効化する」](#)、18 ページ を参照)。



- ① USB ポート
- ② HDMI ソケット PC
- ③ HDMI ソケット外部モニター (不使用)
- ④ LAN 拡張接続。PC の LAN をこの端子に接続することで、Cisco DX70 と PC で共通の LAN 接続を共有できます
- ⑤ LAN 接続
- ⑥ 電源ソケット

このユーザ ガイド について

このユーザ ガイドは、DX70 および DX80 の両方に適用されます。これらの製品のディスプレイはサイズが異なりますが、サイズ以外の点では、画面に表示される画像は同じものです。

本ガイドで使用されるスクリーンショットは、DX80 の図に挿入されています。



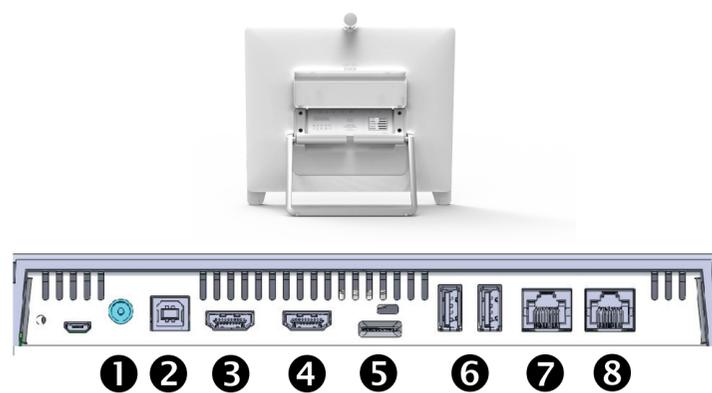
- ① プライバシー シャッター付きカメラ。反時計回りに回すとシャッターが閉じ、時計回りに回すとシャッターが開きます
- ② マイク ミュート ボタン、スピーカー音量コントロール
- ③ スピーカー
- ④ SD カード スロット、ヘッドセット用コネクタ、USB 用コネクタDX70 では現在 Bluetooth ヘッドセットがサポートされています。詳細については 6 ページを参照してください。
- ⑤ 電源オン/オフ
- ⑥ マイクロフォン

はじめに Cisco DX80 の説明

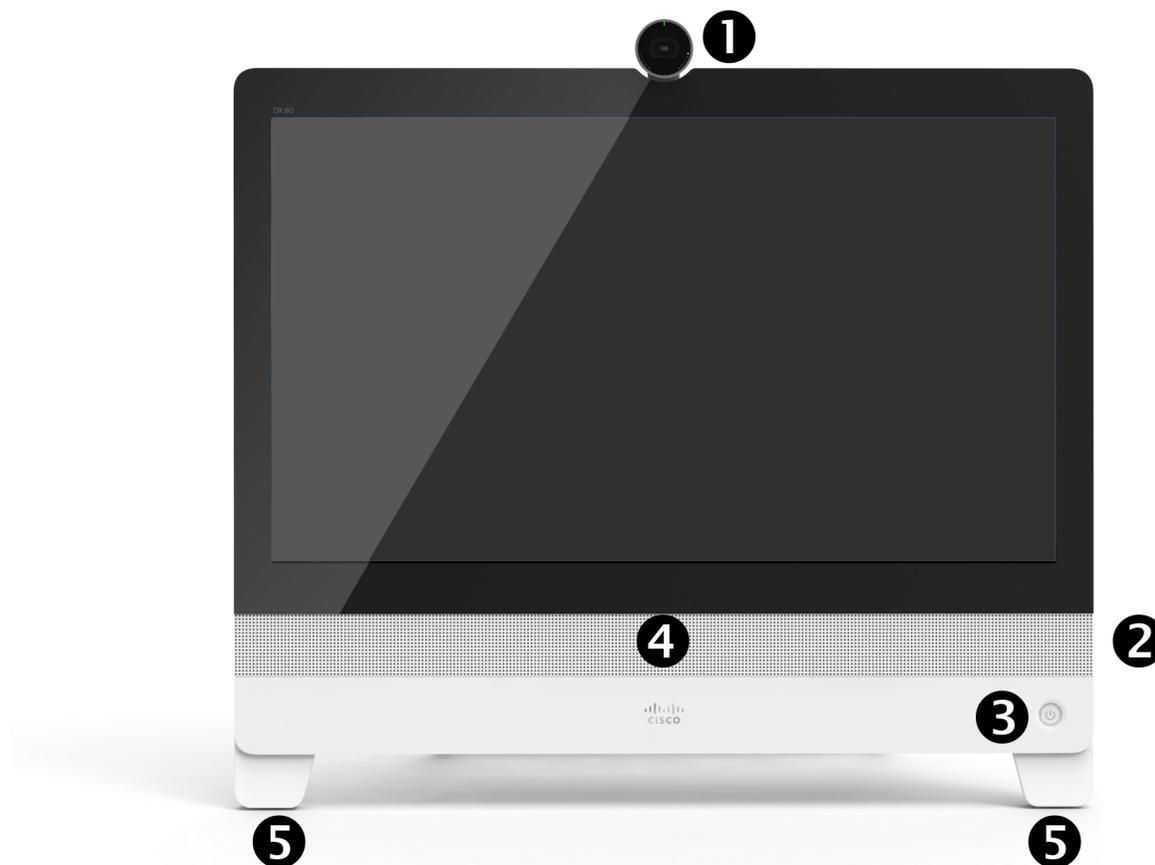
PC モニタとして使用します。HDMI ケーブルを使用して、PC の HDMI 端子に接続します (下図参照)。

画面をタップするだけで、PC モニタとビデオ画面を切り替えることができます。

着信コールは、応答不可を有効にしていない限り、PC モードかビデオ モードかを問わず、通常通り表示されます (詳細は [「\[応答不可 \(Do Not Disturb\)\] を有効化する」](#)、18 ページを参照)。



- ① 電源ソケット
- ② USB によるコンピュータ接続
- ③ HDMI によるコンピュータ接続
- ④ HDMI 外部モニタ接続 (不使用)
- ⑤ SD カード スロット、ケンジントン ロック
- ⑥ USB ポート
- ⑦ LAN 拡張接続。コンピュータの LAN をこの端子に接続することで、Cisco DX80 とコンピュータで共通の LAN 接続を共有できます
- ⑧ LAN 接続



- ① プライバシー シャッター付きカメラ。反時計回りに回すとシャッターが閉じ、時計回りに回すとシャッターが開きます
- ② マイク ミュート ボタン、スピーカー音量コントロール、USB ソケット (ユニット右側)
- ③ 電源オン/オフ
- ④ スピーカー
- ⑤ 各脚内のマイク

DX80 と USB ヘッドセット

DX 80 は、USB 有線音声デバイス用の標準プロトコルを実装しています。

DX80 では Bluetooth ヘッドセットのサポートが追加されました。詳細については以降のページを参照してください。

メーカーは、(HID プロトコルと呼ばれる) 標準を独自に実装できます。

そのため、同じメーカー製でもモデルによって動作が異なる場合があります。すべてのヘッドセットとハンドセットの動作を保証することはできません。

CE 9.2 では、有線ヘッドセットと dongle を使用して動作するヘッドセットのみをテストしました。

DX80 では現在 Bluetooth ヘッドセットがサポートされています。詳細については 6 ページを参照してください。

このヘッドセットのリストはすべてを網羅したものではありません。他にも多くのヘッドセットが動作します。Jabra、Plantronics、Sennheiser では独自にテストを実施し、DX80 をサポートする自社製ヘッドセットのリストを提供しているため、そちらも参照してください。

シスコによりテスト済みのヘッドセットは次のとおりです。

- Jabra Evolve 40
- Jabra Evolve 65
- Jabra Pro 9450
- Jabra Pro 9470
- Sennheiser MB Pro 2

はじめに

Bluetooth ヘッドセットとのペアリング

Bluetooth ヘッドセット

DX70 と DX80 では Bluetooth ヘッドセットがサポートされています。

サポートされている Bluetooth プロファイル:

- HFP (Hands-Free Profile)
- A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)

Bluetooth ヘッドセットは組み込みの Bluetooth 無線を直接使用してサポートされています。また USB Bluetooth ドングルを介して使用することもできます。

複数のヘッドセットをビデオ システムとペアリングできますが、一度に接続できるのは 1 つだけです。

範囲は最大 10m (30 フィート) です。通話中にこの範囲の外に出ると、音声はビデオ システムのスピーカーに切り替わります。

ほとんどのヘッドセットには音量コントロールが組み込まれています。通話中の場合は、ヘッドセットとビデオ システムの音量は同期しています。通話中でない場合は、ヘッドセットとビデオ システムの音量ボタンは独立して動作します。

サポート対象の Bluetooth 機能

- 着信通話の応答
- 着信通話の拒否
- 通話の終了
- 音量の増減

一部のヘッドセットにはミュート コントロールがあります。これはビデオ システムのミュート コントロールとは独立して動作します。

ペアリングを開始するには、**[設定 (Settings)]** をタップします。メニューに **[Bluetooth 設定 (Bluetooth settings)]** が表示されます。

USB Bluetooth ドングル

音質が向上するため、USB Bluetooth ドングルを使用することが推奨されます。このドングルを使用すると、ヘッドセットが USB ヘッドセットとして検出されます。

ドングルを使用する場合、ヘッドセットの音量とビデオ システムの音量は同期されません。

シスコでは Jabra Link 360、Plantronics BT300、および Plantronics BT600 についてテストを行っていますが、他の製品も同様に良好に動作します。

Bluetooth ヘッドセットのペアリング

1. ヘッドセットで Bluetooth のペアリングをアクティブにします。不明な点については、ヘッドセットのマニュアルを参照してください。
2. 左下の説明に従い、**[設定 (Settings)]** に移動します。**[システム情報 (System information)]** メニューの詳細については、**「設定」、38 ページ**を参照してください。Bluetooth が無効になっている場合は有効にします。Bluetooth はデフォルトで有効になっています。
3. ビデオ システムがデバイスをスキャンします。検出された Bluetooth ヘッドセットがデバイス リストに表示されます。
4. デバイスを選択するとペアリングが開始されます。ペアリングが完了するまで数秒かかることがあります。
5. ペアリングが成功すると、ビデオ システムに接続済みのヘッドセットとしてリストされます。これでペアリングが完了です。

ビデオ システムのスピーカーと、Bluetooth または USB で接続されたデバイスとを切り替えることができます。

ユーザ インターフェイスのステータス バーにあるアイコンを選択し、使用可能な端末から選択します。

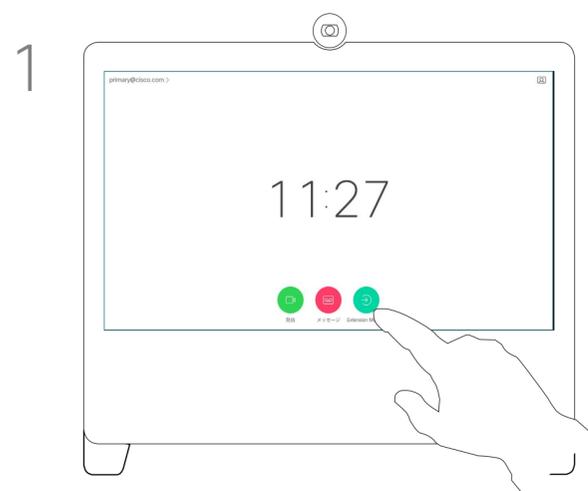
- 🔊 スピーカー
- 🎧 アナログ ヘッドセット (DX70 のみ)
- 🎧 USB ヘッドセット
- 📞 USB ハンドセット
- 🔗 Bluetooth デバイス

Bluetooth のペアリングは、ビデオ システムに対して直接行うことも、USB ドングルを使用して行うこともできます。

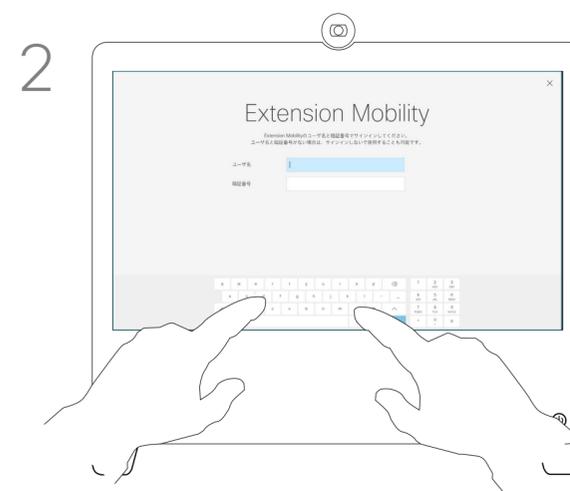


はじめに 自分のクレデンシャルでログインする

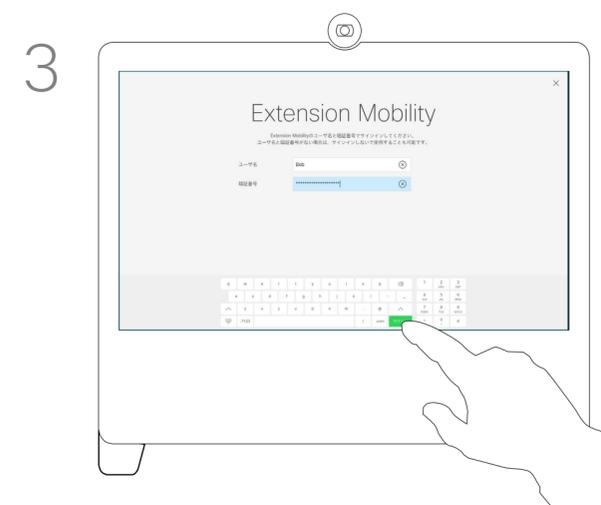
エクステンション モビリティについて



1 緑色の [エクステンション モビリティ (Extension Mobility)] ボタンをタップします。



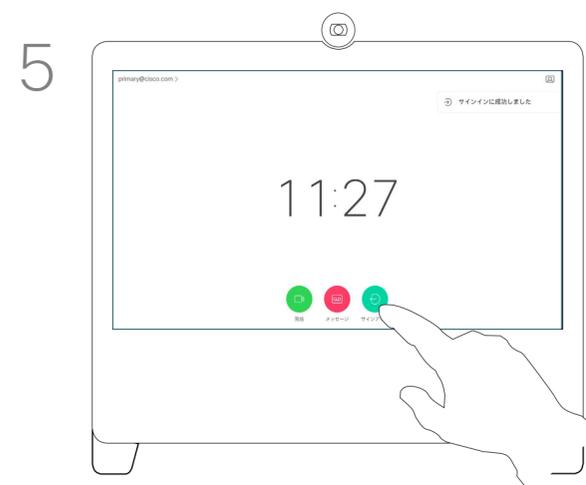
2 ユーザー名と PIN コードを入力します。



3 [ログイン (Login)] をタップします。



4 サインインの成功をシステムが確認します。



5 ログアウトするには、図のように [サインアウト (Sign out)] をタップします。

会議室や静音室に設置されている、CUCM (Cisco Unified Communications Manager) の管理下で実行されているビデオ システムには、各自の資格情報でログインできます。

CUCM により、自分宛ての着信通話は、ログインしているビデオ システムにすべてルーティングされます。

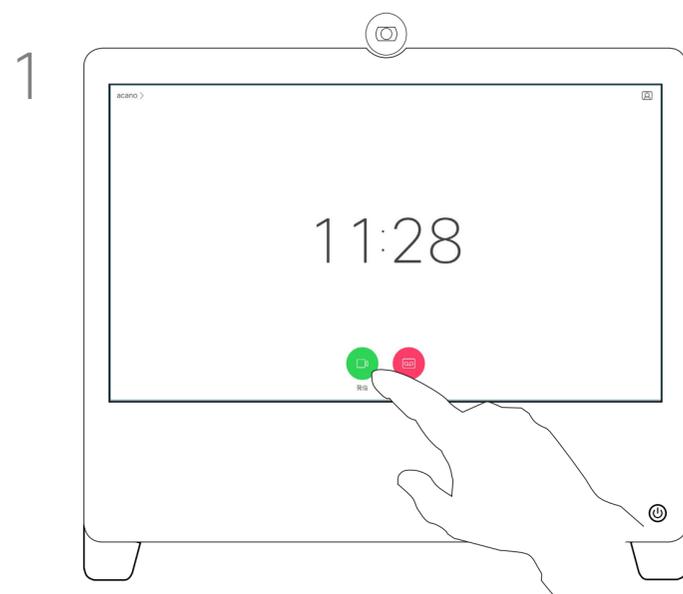
エクステンション モビリティからログアウトすると、[発着信履歴 (Recents)] の一覧はシステムからクリアされます。

エクステンション モビリティはホットデスクングとも呼ばれます。

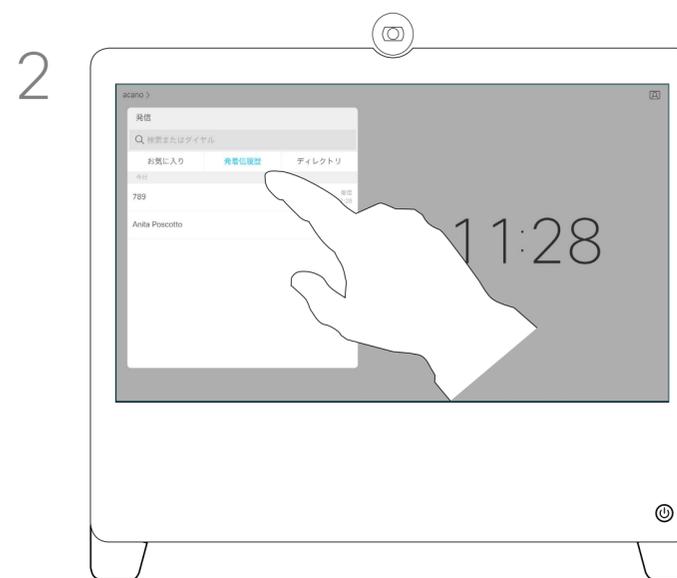


ビデオ コール

ビデオ コール 連絡先リストから発信する



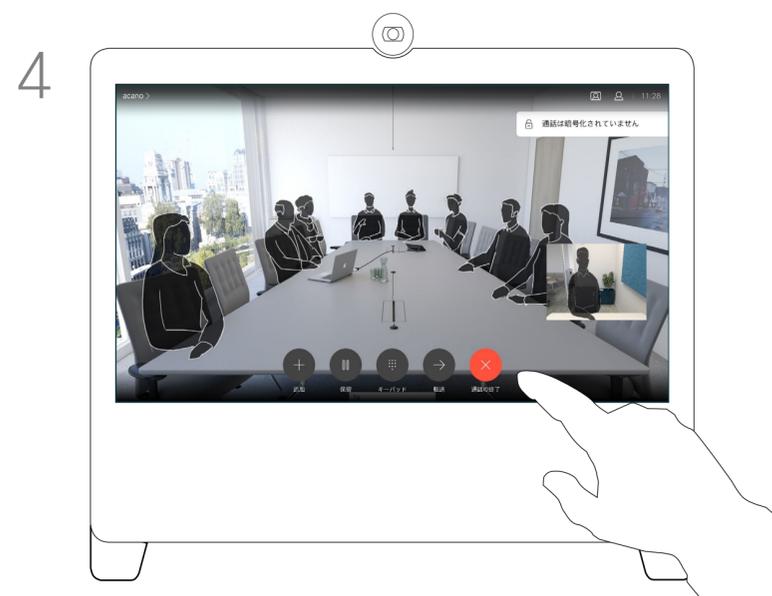
緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。



特定のリスト ([お気に入り (Favorites)], [ディレクトリ (Directory)], [発信履歴 (Recents)]) で通話相手を検索するには、そのリストをタップし、下へスクロールして相手のエントリを探します。



そのエントリをタップすると、緑色の [発信 (Call)] ボタンが表示されます。図のように、緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。



これで発信が行われます。通話を終了するには、赤色の [終了 (End)] アイコンをタップします。

連絡先のリストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り (Favorites)] の連絡先は自分で設定します。通常は、頻繁に通話する相手や、すばやく簡単に連絡を取りたい相手を指定します。

[ディレクトリ (Directory)] は通常、ビデオ サポート チームがシステムにインストールした社内ディレクトリです。

[発信履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

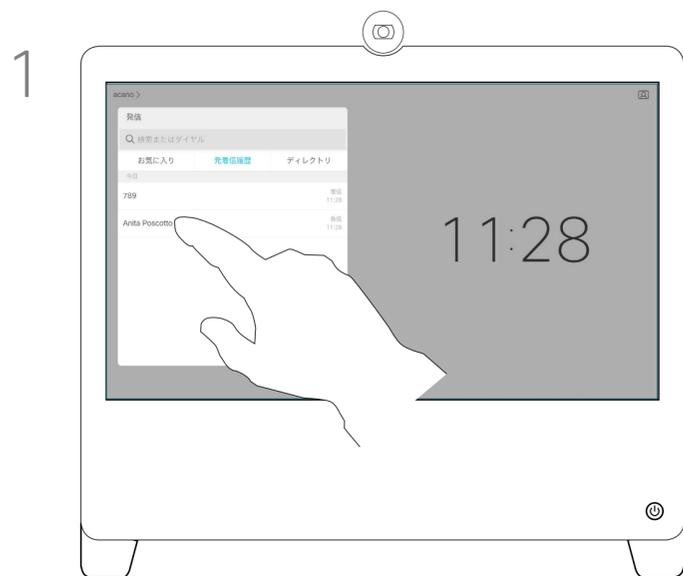
次のオプションが適用されます。

- 名前、番号、または IP アドレスを入力できます。ここでは、すべてのリストから検索されます。
- [お気に入り (Favorites)] リストに追加したエントリは、発信の前に編集したり、帯域を変更したりすることができます。

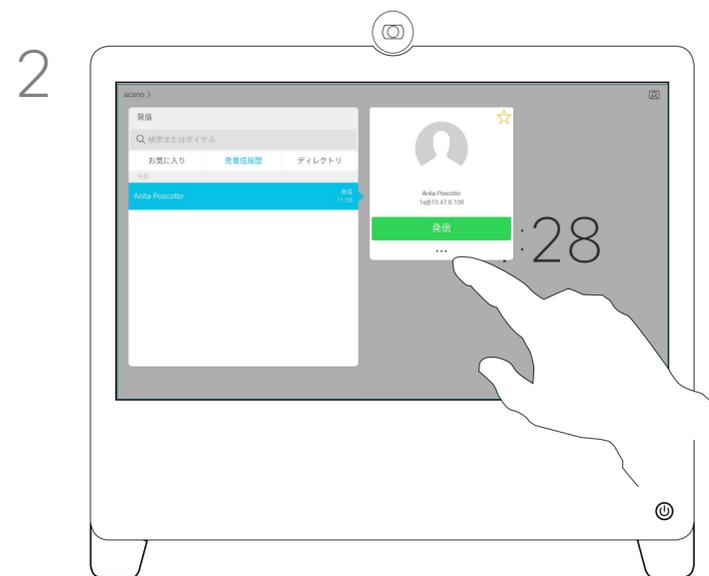
[発信履歴 (Recents)] からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

ビデオ コール 発信前に連絡先を編集する

エントリの編集について



発信する前に、編集するエントリを見つけます。そのエントリをタップします。[発信 (Call)] メニューが表示されます。



緑色の [発信 (Call)] ボタンのすぐ下にあるその他 (...) アイコンをタップします。



[編集して通話 (Edit and Call)] をタップします。



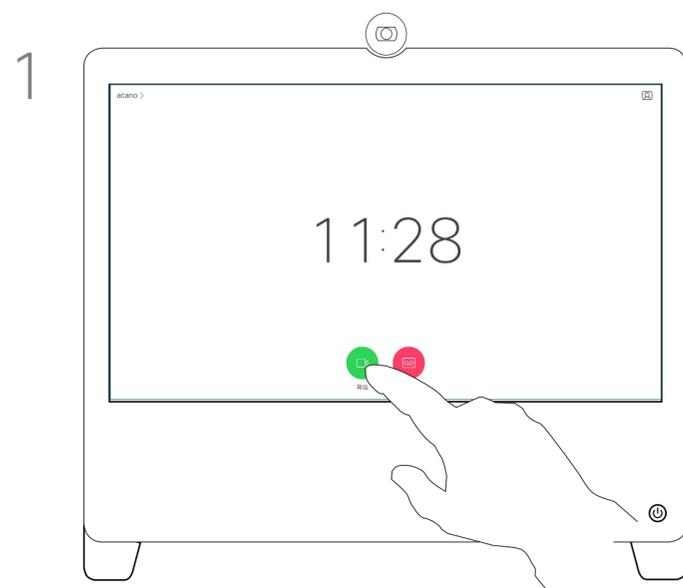
キーボードを使って編集し、緑色の [発信 (Call)] ボタンのどちらかをタップして発信します。

連絡先リストの入力方法については、前ページを参照してください。

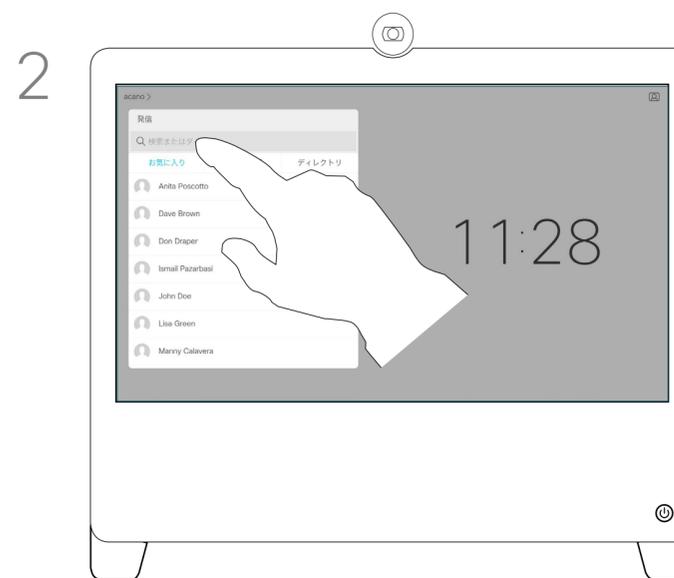
発信する前に、[連絡先 (Contact)] リストのいずれかのエントリを編集する必要があるかもしれません。たとえば、正しく発信するために、プレフィックスやサフィックスを追加するか、またはエントリ自体を変更する必要があるかもしれません。

ビデオ コール 名前、電話番号、またはアドレスを使用して発信する

発信について



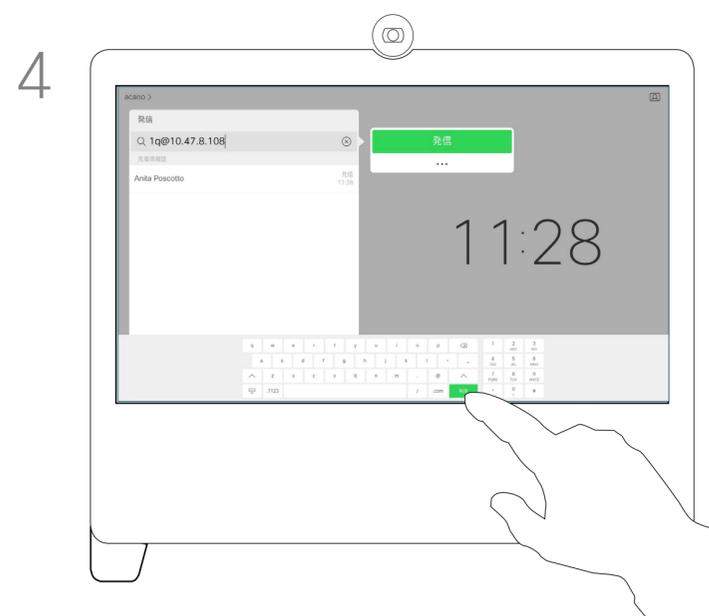
1 緑色の **[発信 (Call)]** ボタンをタップします。



2 **[検索またはダイヤル (Search or Dial)]** フィールドをタップします。この操作を行うと、キーボードが表示されます。



3 名前、番号、またはアドレスを入力します。入力内容に合わせて、一致する可能性のあるものや候補が表示されます。正確に一致するものがリストに表示されたら、タップします。表示されない場合は入力を続けます。



4 通話先を入力し終えるか見つけたら、緑色の **[発信 (Call)]** ボタンのどちらかをタップして発信します。

連絡先のリストに載っていない相手に発信するには、ディスプレイに表示される仮想キーボードを使用して、名前、アドレス、または番号を入力します。

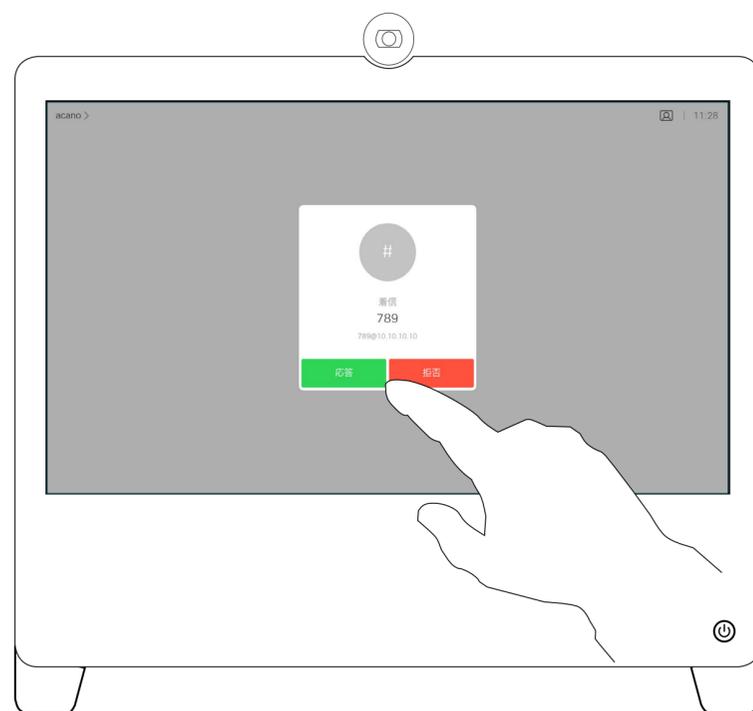
これまでの発信先または着信元がすべて **[発信履歴 (Recents)]** リストに表示されます。これらの発信先または着信元は **[お気に入り (Favorites)]** リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

内線番号や暗証番号を入力する場合など、通話中に数字の入力が必要になることがあります。

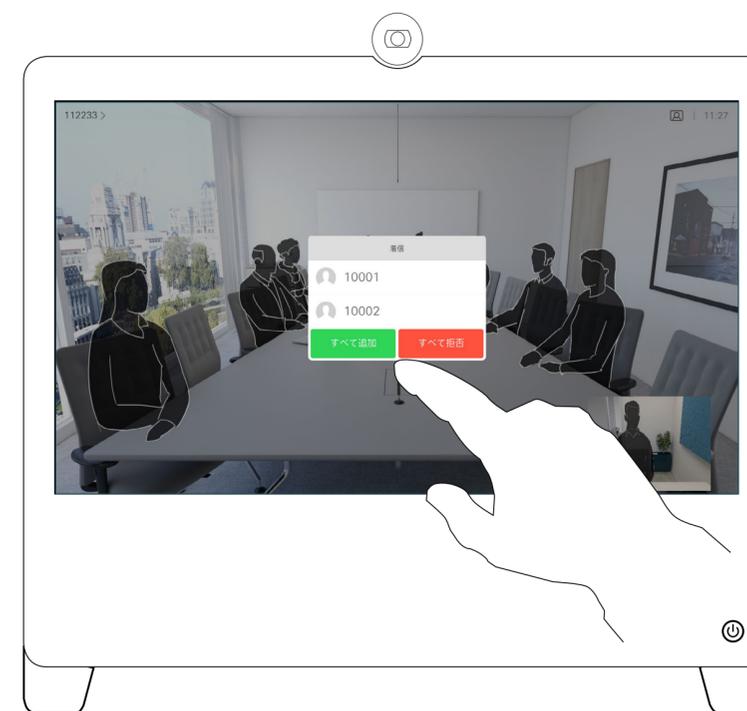
この場合に必要なキーパッドを呼び出すには、**[トーン信号 (Touch Tones)]** (このボタンは、発信するとすぐに表示されず) をタップします。

[発信履歴 (Recents)] をクリアできるのは Web インターフェイスからのみであることに注意してください。

ビデオ コール 着信コール



着信コールに [応答 (Answer)] するか [拒否 (Decline)] するかに応じてタップします。



ビデオ インフラストラクチャによっては、複数の着信通話を受信できます。これらをすべて現在の通話に追加するか、すべて拒否するかを選択できます。

着信があった場合

- 着信があった場合は、通話を許可、拒否、または無視できます。
- 通話を拒否した場合、ビジーであるという情報が発信者に送信されます。
- 通話を無視する場合、発信者にとっては不在状態（電話を取らなかった）と同じになります。
- ビデオ インフラストラクチャによっては、複数の着信通話を受信できます。必要に応じて、貴社のビデオ サポート チームにお問い合わせください。

ビデオ コール 通話中に別の通話に応答する

オプションについて

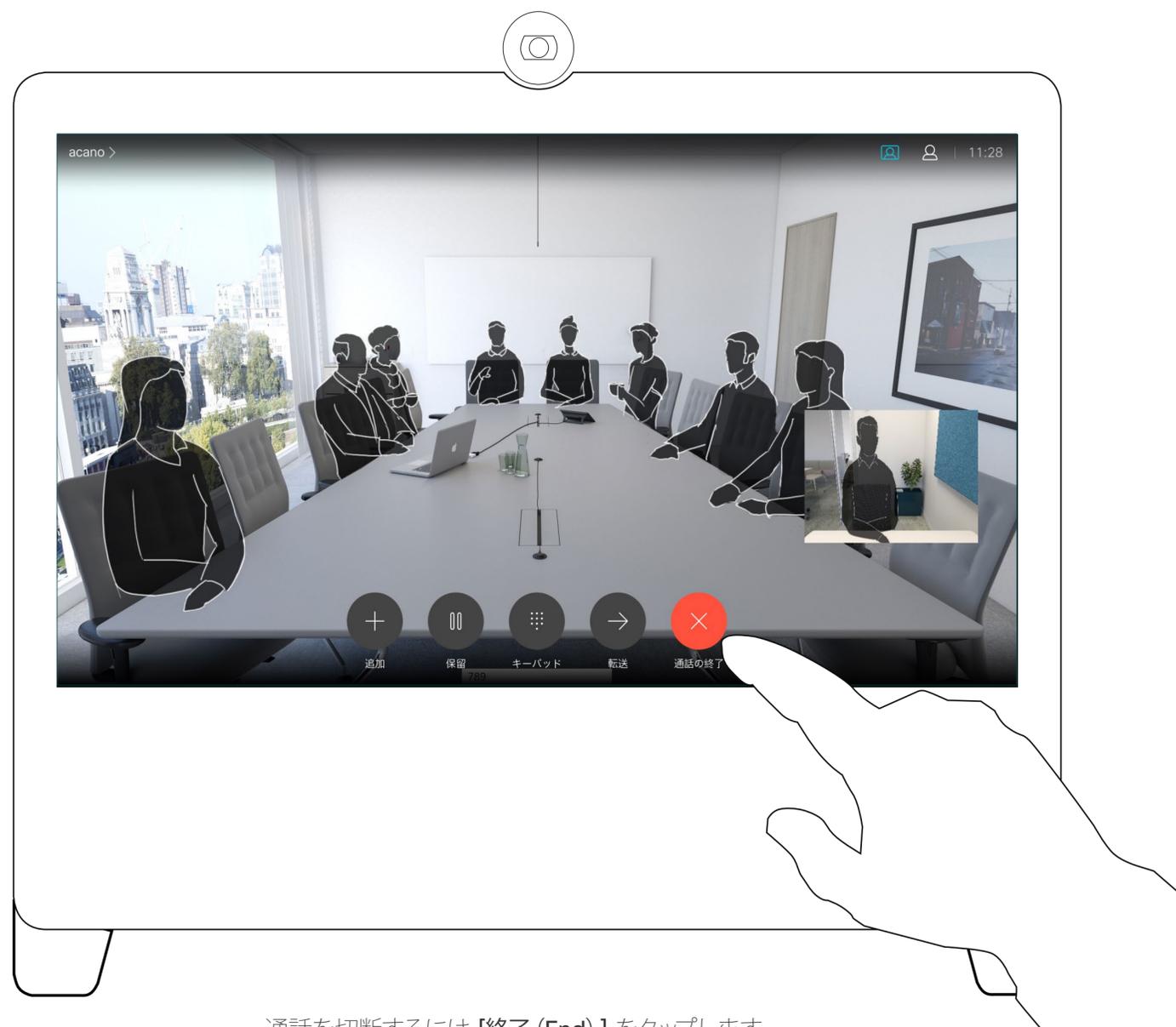
特定の状況下では、通話中に別の着信を受け入れることができます。



ビデオ コール 通話の切断

切断について

通話中に **[終了 (End)]** をタップすると、通話から切断されます。2 者間通話では、これで通話が終了します。

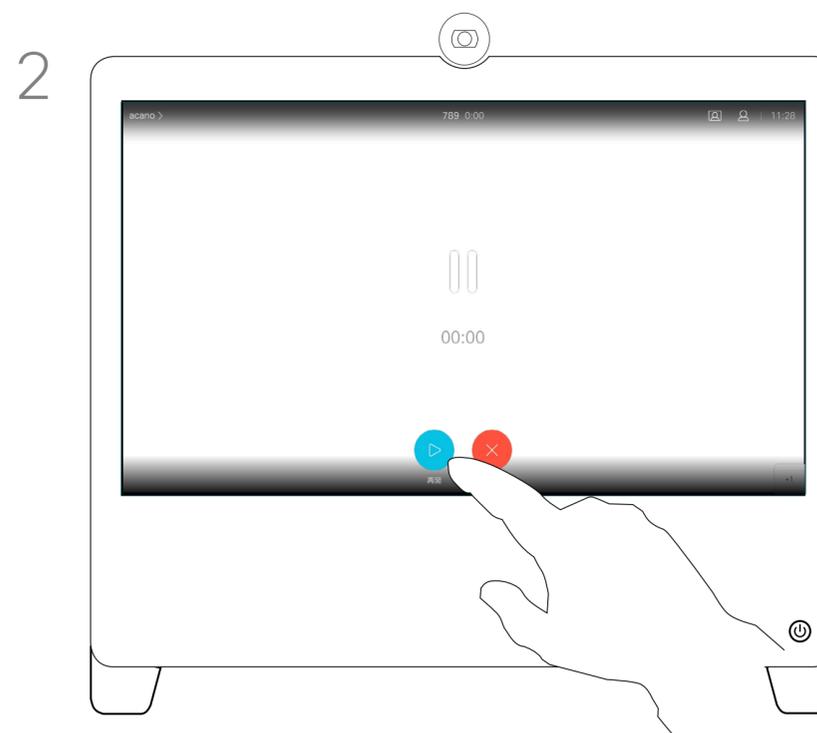


ビデオ コール 通話を保留にする/保留中の通話を再開する

保留について



通話中に [保留 (Hold)] をタップします。



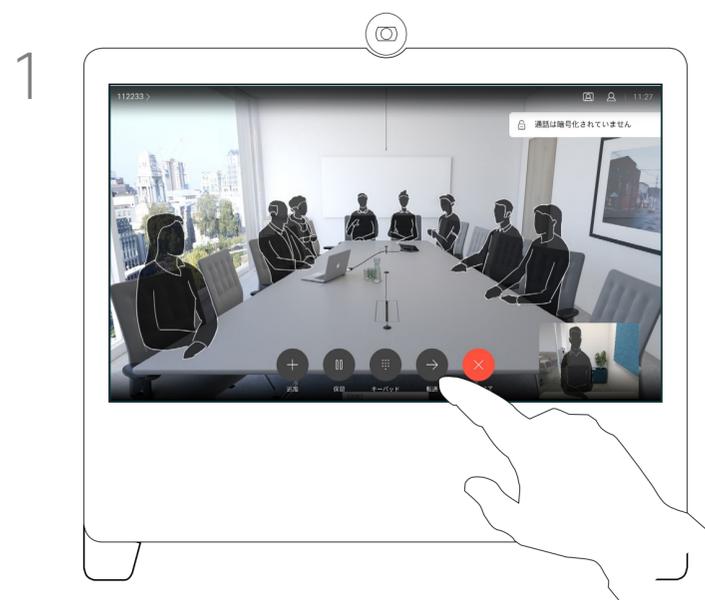
[再開 (Resume)] をタップして、通話状態にあった相手に戻ります (元の操作に戻ります)。

通常、相手を保留にする操作は、他の人に転送する場合の最初のステップとして行うものですが、打診が必要な場合や、ビデオ送信の停止などを含むミュートの代わりとしても使用できます。

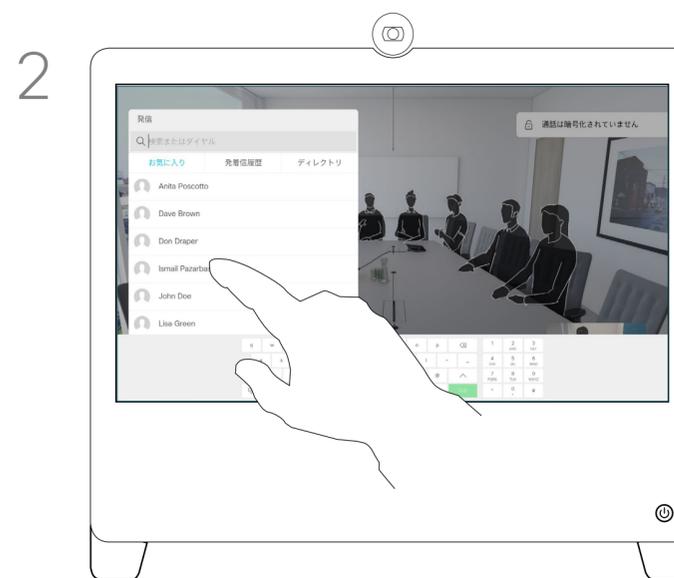
ビデオ コール 対応中の通話を転送する

転送について

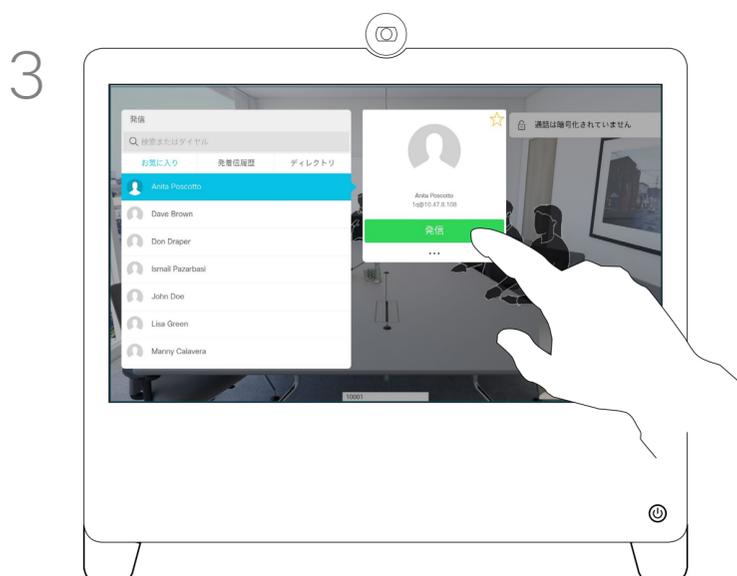
対応中の通話を別のの人に転送することができます。転送する場合は常に打診をします。つまり、実際に通話を転送する前に、転送先の相手と話することができます。



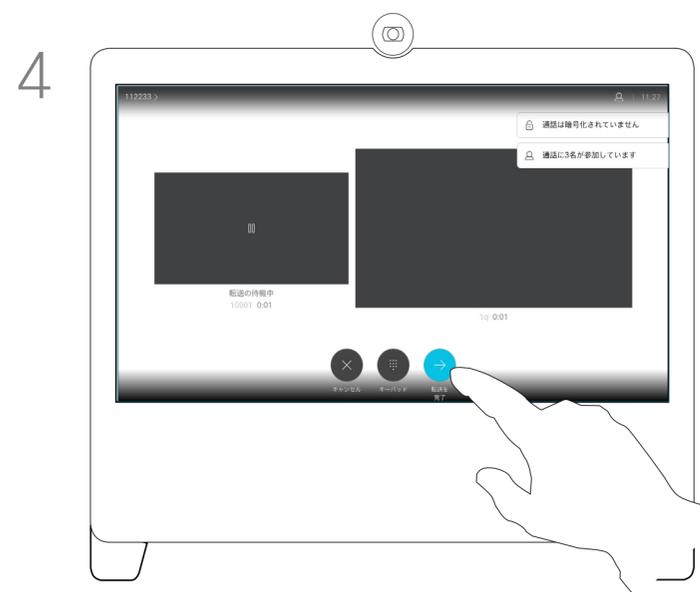
【転送 (Transfer)】 ボタンをタップします。この操作で、現在の通話が保留になります。



通常の方法で、発信先を探します。



緑色の【発信 (Call)】 ボタンをタップします。発信先の相手と話して、転送しても構わないか確認します。転送される側は、保留のままになっています。



【転送完了 (Complete Transfer)】 をタップします。

ビデオ コール 帯域を変更する

帯域について



1 **[発信 (Call)]** ボタン (図示せず) をタップして、帯域を変更するエントリ (図示せず) を特定します。このエントリをタップすると、**[発信 (Call)]** メニューが表示されます。それから、緑色の **[発信 (Call)]** ボタンの下にある、**その他 (...)** アイコンをタップします。



2 **[カスタム発信 (Custom call)]** をタップします。



3 必要な設定までスライダを移動します。



4 緑色の **[発信 (Call)]** ボタンをタップして発信します。

「帯域」とは、通話に割り当てられている帯域幅を示すために使われる用語で、単位は Kbps (キロビット/秒) です。

帯域が大きくなるほど品質が向上しますが、帯域幅使用量も増えます。

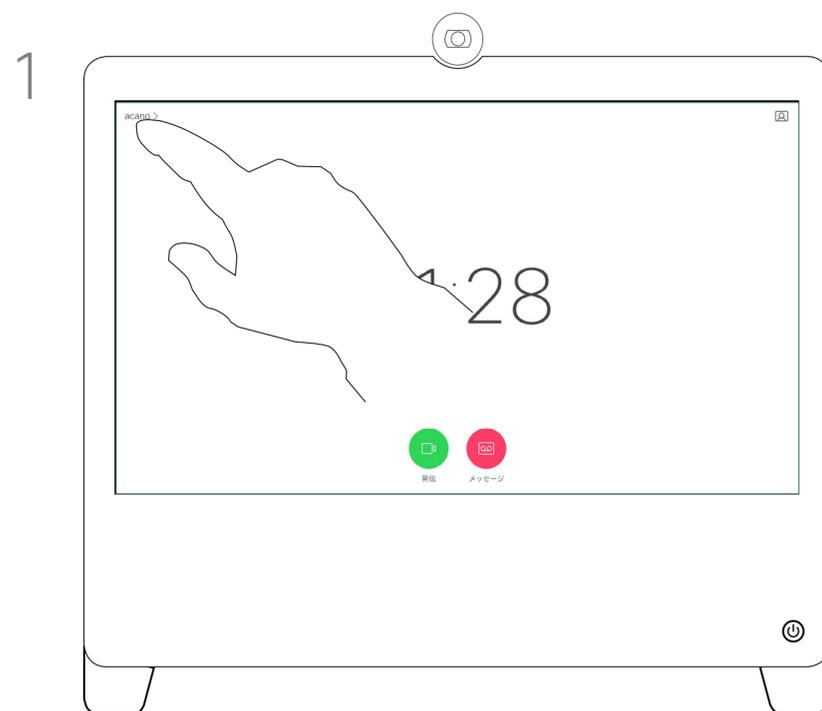
システムでは、デフォルトの帯域が設定されています。通常は、ビデオ サポートチームが設定します。通常の条件下では、帯域は必要に応じてシステムが自動的に調整します。これは、システムと接続がサポートしている帯域よりも大きな帯域で通話を試みた場合に、ビデオ コールの品質低下やフリーズを避ける目的があります。

何らかの理由で自動帯域設定に障害が発生した場合、最終手段として手動で帯域を調整することもできます。

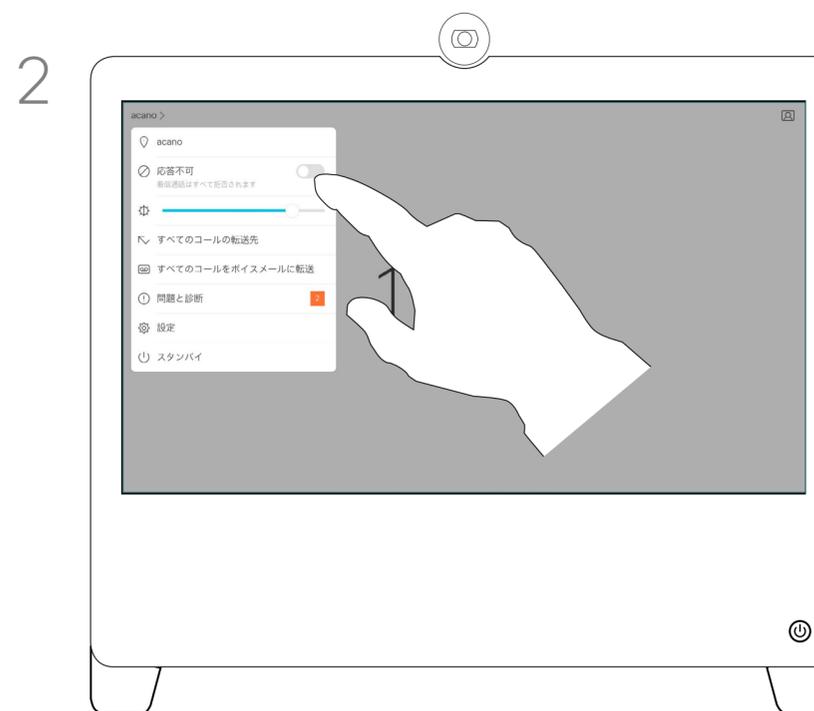
通話中に帯域を変更することはできませんが、左側で説明するように発信の直前なら変更できます。

ビデオ コール [応答不可 (Do Not Disturb)] を有効化する

応答不可について



図のように左上隅をタップします。



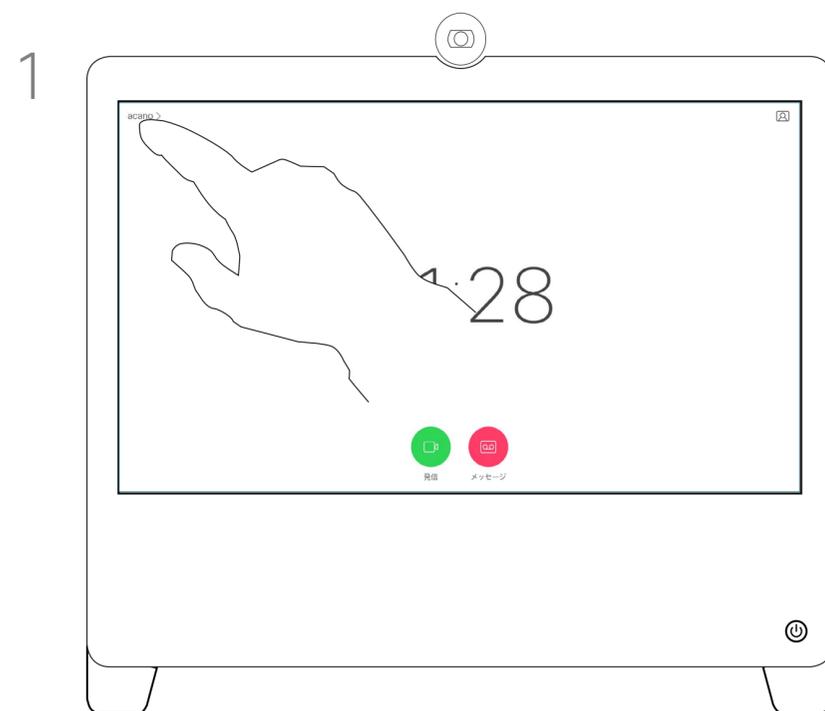
[**応答不可 (Do not disturb)**] をタップして、この機能を有効化します。もう一度タップするとオフになります。

システムでは、着信に応答しないように設定できます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信できます。

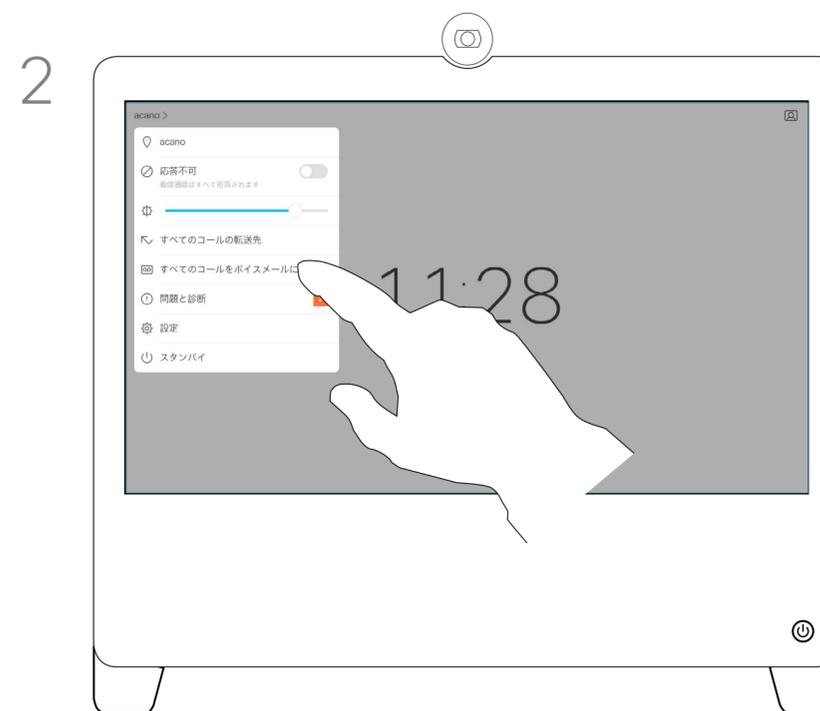
ビデオ サポート チームが、この機能のタイムアウトを設定している場合があります。タイムアウト後は、通常のように着信に回答できるようになります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。

ビデオ コール すべての通話の自動転送

通話の転送について



図のように左上隅をタップします。

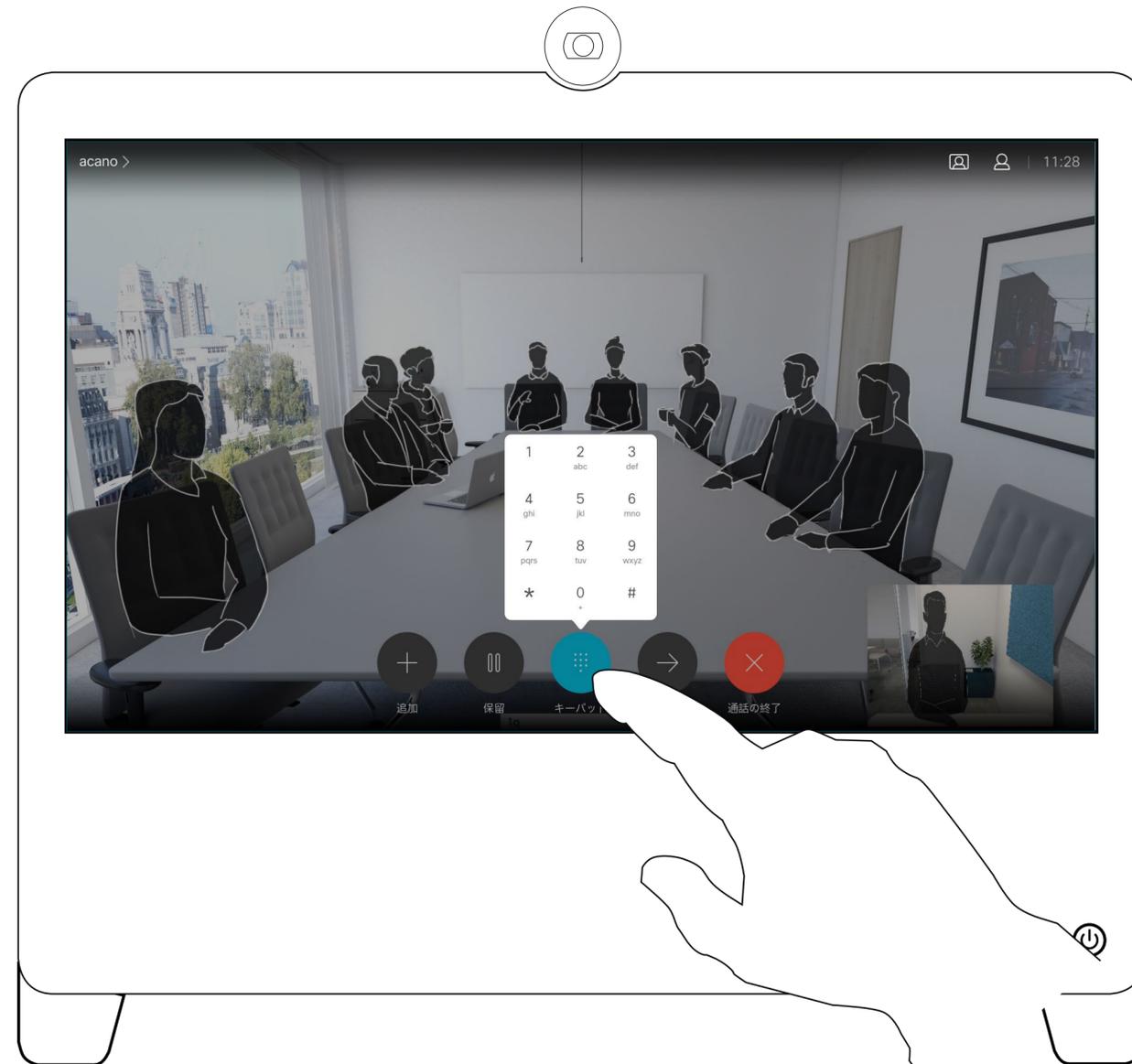


指定した受信者、または自分のボイスメールに、すべての通話を転送することができます。

ビデオ サポート チームが、受信したすべての通話を転送するオプションを有効にしている場合があります。ボイスメール、または、指名した受信者を選択できます。

[すべての通話の転送先 (Forward all calls to...)] をタップすると、いつもの **[発信 (Call)]** メニューが表示され、受信者を指定できます。

ビデオ コール 通話中にキーパッドを表示する



通話中に [トーン信号 (Touch Tones)] をタップすると、ダイヤルパッドが呼び出されます。

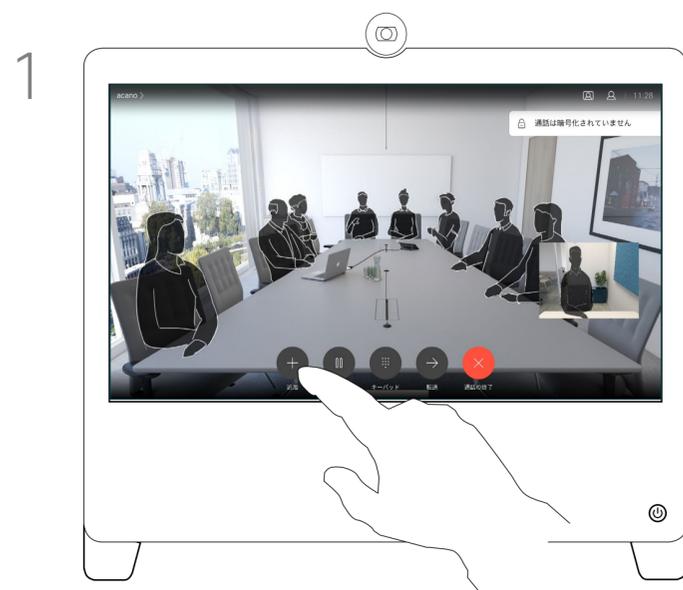
通話中のキーパッドの使用

通話中、内線にかけるために、または何か (暗証番号など) を入力するためにダイヤル操作が要求されることがあります。

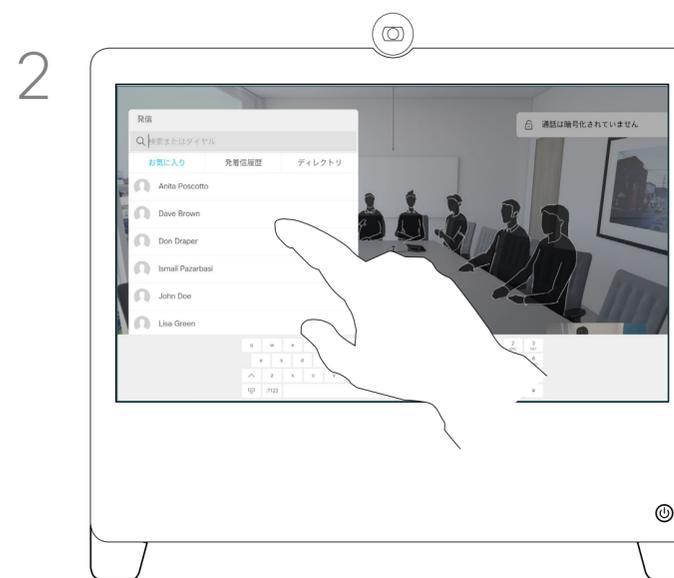
これを送信できるようにするには、タッチスクリーンにキーパッドを呼び出す必要があります。

ビデオ コール 既存の通話に参加者を追加する

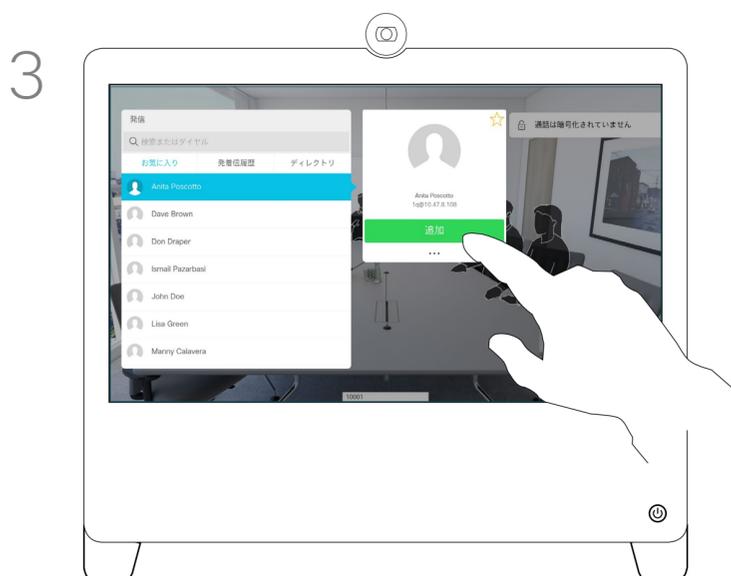
ビデオ会議について



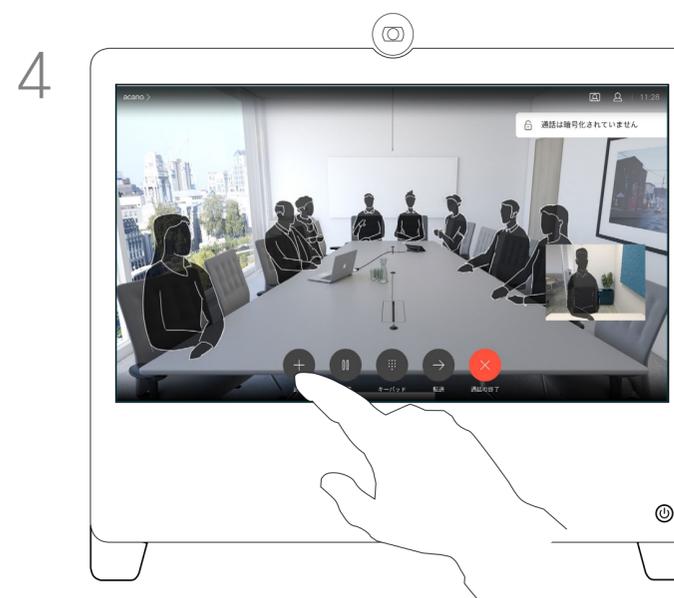
通話中に [追加 (Add)] をタップします。



通常の方法で、発信先を探します。



通常の方法で発信します。発信する前にその通話の [通話設定 (Call settings)] を変更できます。詳細については、サイドバーを参照してください。



これで新しい通話が既存の通話に追加され、会議が確立されます。

この手順は、ビデオ インフラストラクチャで可能な人数まで繰り返せます。

ビデオ システム ネットワークには、複数の参加者とビデオ会議を開始する機能が備わっている場合があります。

ご使用のビデオ システムでサポートされている参加者の最大人数は、システム構成とビデオ インフラストラクチャによって決まります。ご不明な場合は、ビデオ サポート チームにお問い合わせください。

ビデオ会議を開始する場合は、各参加者に 1 人ずつ電話をかける必要があります。

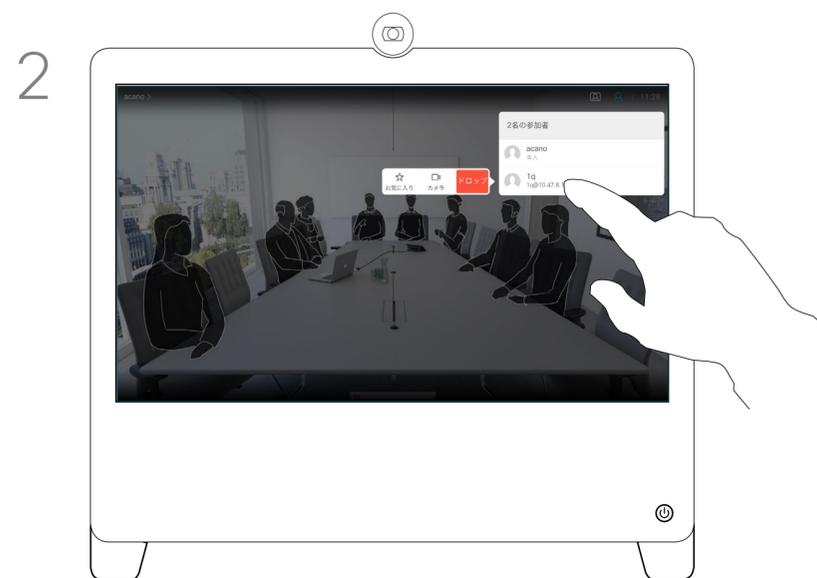
会議を開始したユーザは、会議全体を終了することができます。他の参加者は、自分自身のみ会議から切断できます。

ビデオ コール 会議から参加者を切断する

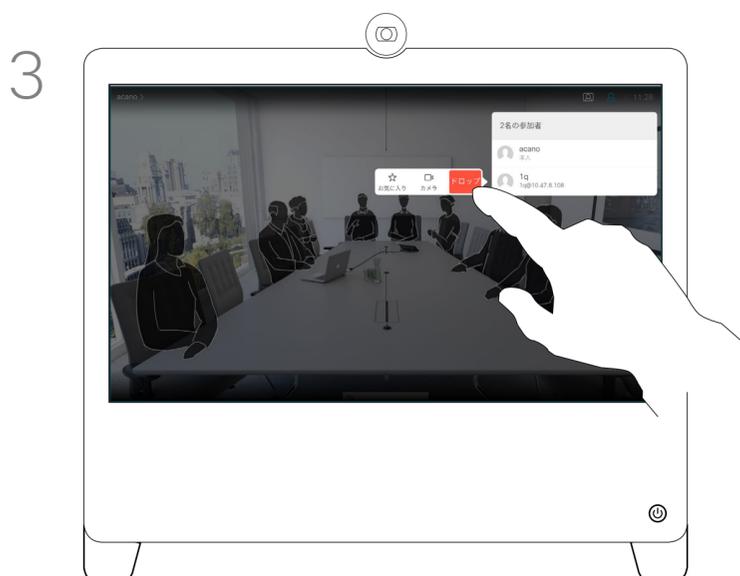
ビデオ会議について



通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



会議からドロップさせる参加者をタップします。



[ドロップ (Drop)] をタップします。

DX70/80 からビデオ会議を実行する機能はオプションであり、システムによっては使用できない場合があります。

Intelligent Proximity



Intelligent Proximity Intelligent Proximity



プロキシミティについて

Intelligent Proximity では、手元の端末（スマートフォン、iPad、Android タブレット、PC、Mac）のワイヤレス DX から、通話中に限りコンテンツを共有できます。

また、自分の端末（スマートフォンとタブレットのみ）を使用してビデオ システムの通話を制御することもできます。

次のことを確認します。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション（無料）をダウンロードする必要があります。

Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> [英語] にアクセスしてください。

ビデオ サポート チームは、すべての機能を有効にしている場合も、無効にしている場合も、一部の機能だけを有効にしている場合もあります。

Intelligent Proximity では、ユーザとの接続に超音波を使用します。コンピュータ、スマートフォン、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

Intelligent Proximity は、会議室の扉が閉じているときに部屋の外で動作しないように設計されています。この機能を使用するには、ビデオ エンドポイントの近くにいる必要があります。

プライバシーの保護が必要な場合は、常に会議室の扉を閉めて、隣室に音が漏れないように配慮してください。



コンテンツ共有

コンテンツ共有 通話でコンテンツを共有する



通話中、送信元を接続して、スイッチがオンになっていることを確認します。[PC の表示 (Show PC)] をタップして、自分の PC の画面を DX70/80 上にローカルに表示します。この操作中に画面に表示されているものは、他の参加者には表示されません。



他の参加者と自分の PC の画面を共有したくない場合は、[PC を非表示にする (Hide PC)] をタップすると元の状態に戻ります。コンテンツを共有する場合は、図のように [共有 (Share)] をタップします。



PC の画面のコンテンツが他の参加者と共有されます。



コンテンツの共有を停止するには、図のように [共有を停止 (Stop Sharing)] をタップします。

コンテンツの共有 について

お使いのビデオ システムは、ビデオ コールやビデオ会議でプレゼンテーションを表示する機能をサポートしています。

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更できます。詳細は次のページを参照してください。

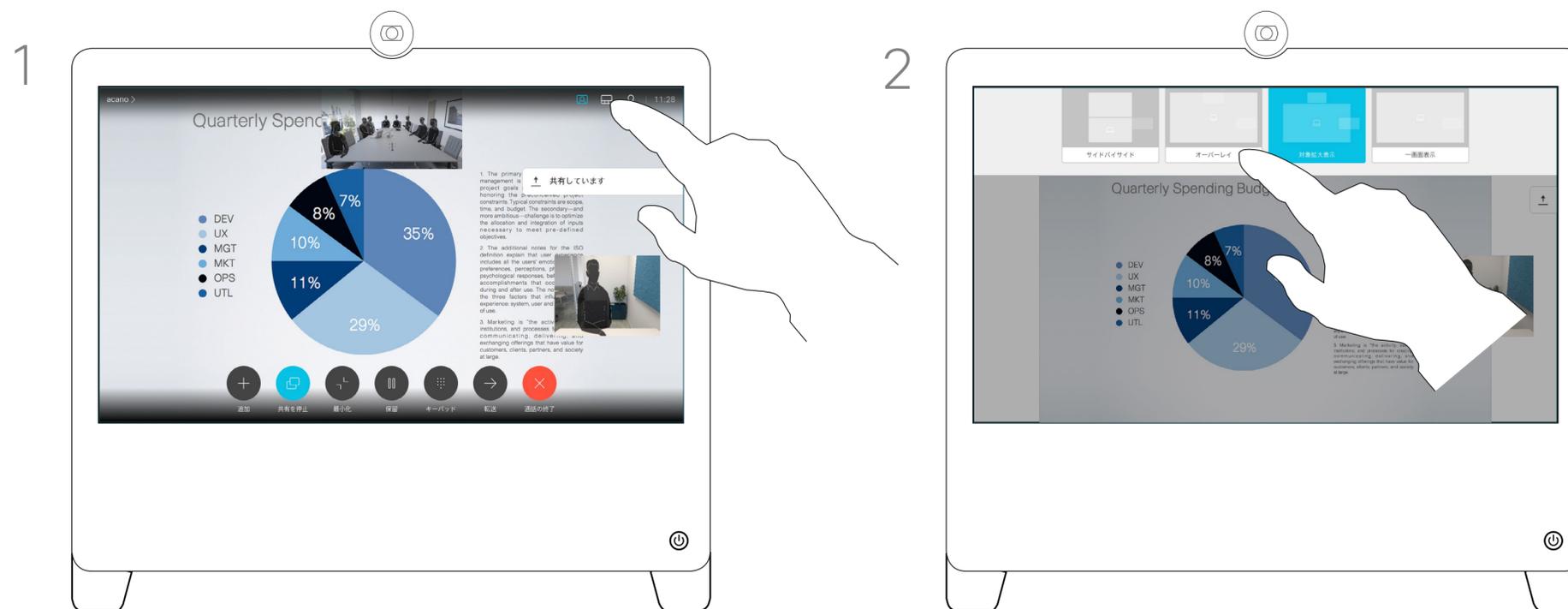
ヒント: お使いのシステム カメラはドキュメント カメラとしても使用できます。図のようにカメラを傾けて、システムの前に置かれているテーブル上のドキュメントなどの対象物が映るようにします。

カメラはユーザの操作を検出し、自動的に画像を垂直方向に切り替えます。その結果、イメージが遠端でも期待どおりに表示されます。



コンテンツ共有 通話中にプレゼンテーション レイアウトを変更する

プレゼンテーション レイアウトについて



図のように、レイアウトをタップして、レイアウトのオプションを呼び出します。

タップして好きなレイアウトを選択します。

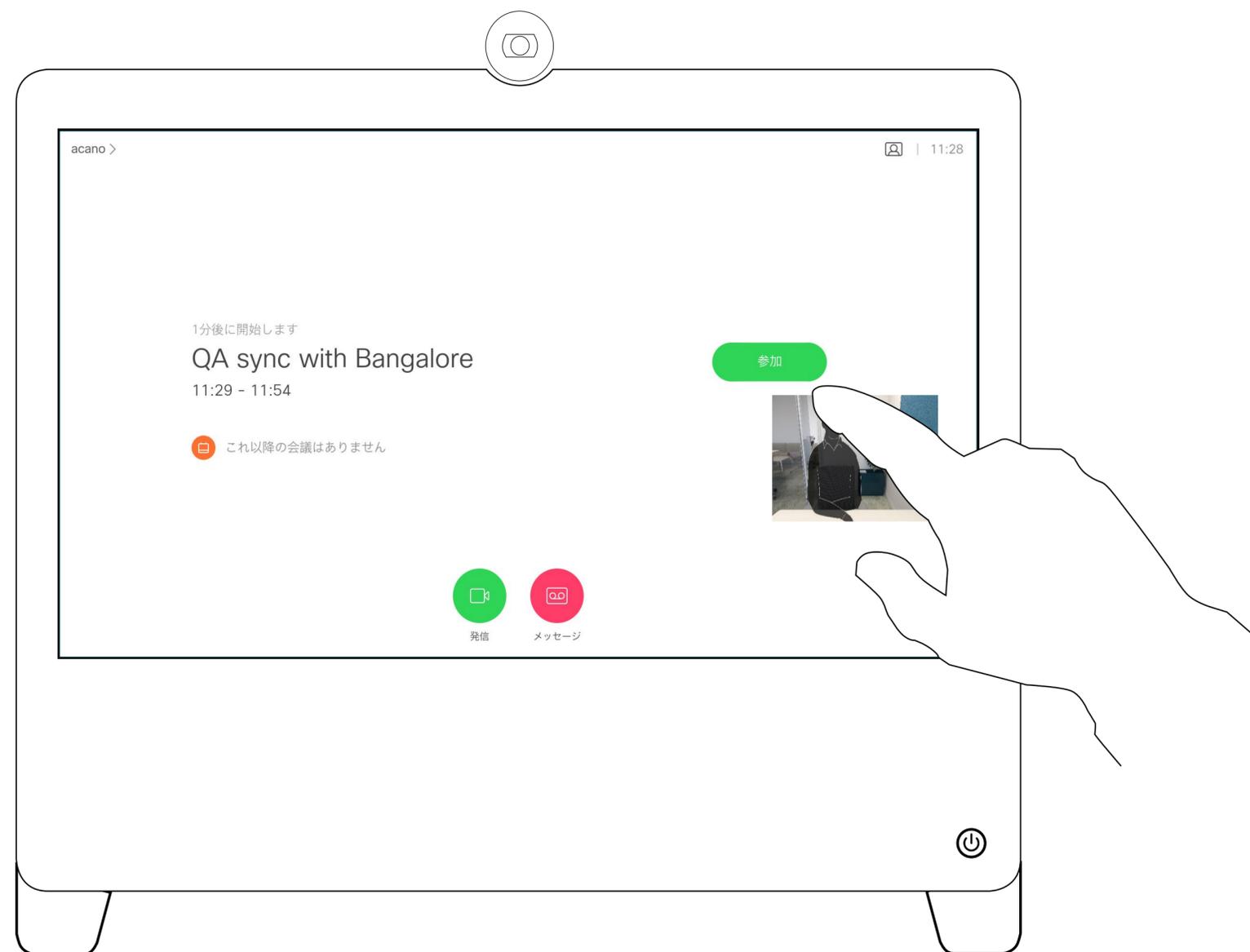
プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更できます。選択できるオプションには、プレゼンターの表示/非表示、プレゼンターを PiP (ピクチャインピクチャ) で表示する、PoP (ピクチャ アウトサイド ピクチャ) で表示する、があります。

ご使用のシステムで選択できるレイアウト オプションは、ここに示すオプションと異なる場合がありますが、表示されるレイアウトを選択すれば切り替えられます。



予定された会議

予定された会議 予定された会議に参加する



会議への参加

ビデオ会議をスケジュールすることができ
る管理システムに、ビデオ システムを接
続することができます。左の図のように、
予定されている会議が表示されます。

会議に参加するには **[参加 (Join)]** をタッ
プします。

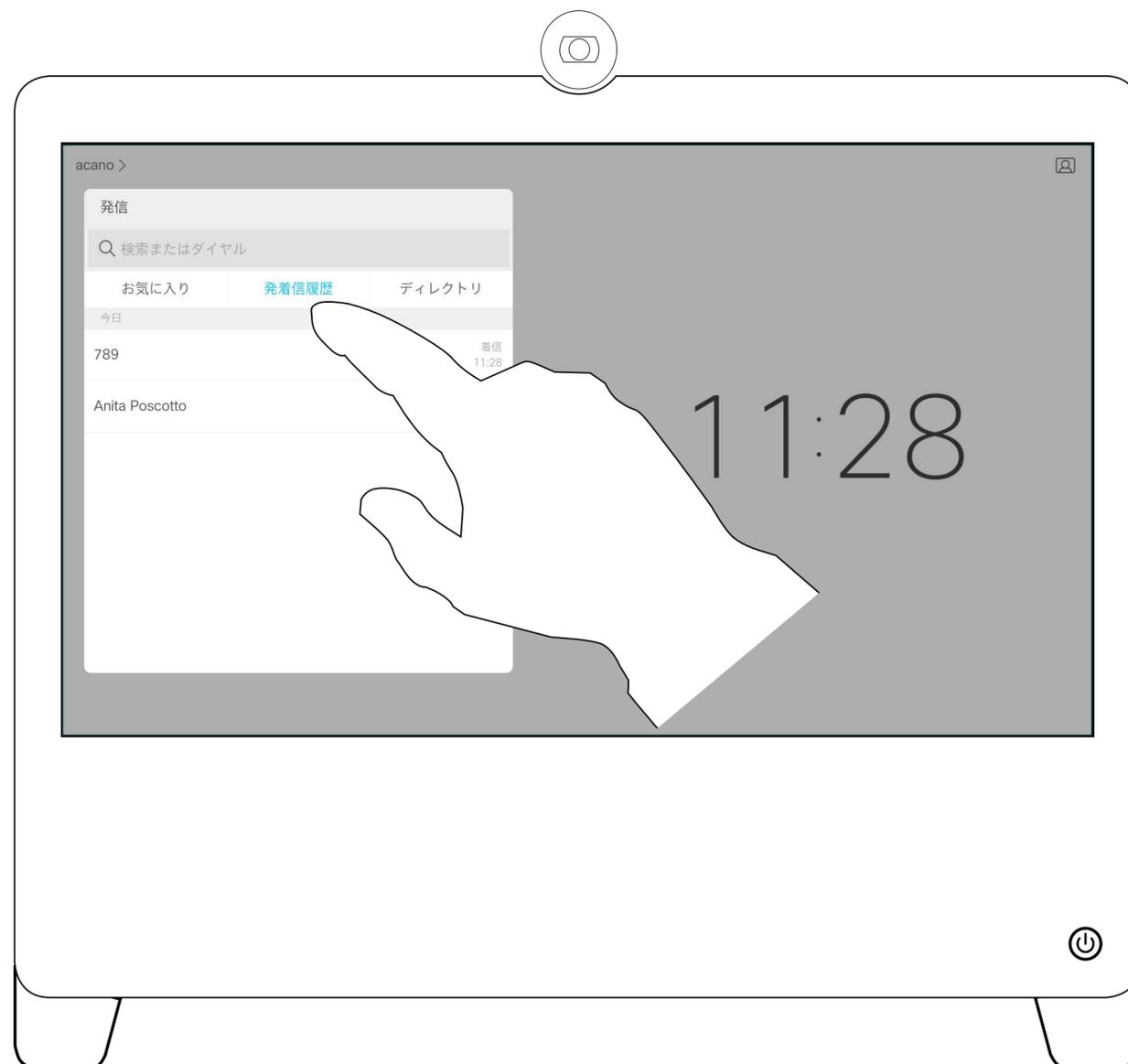
会議がすでに開始されている場合でも参
加できます。



連絡先

連絡先

[お気に入り (Favorites)]、[発着信履歴 (Recents)]、[ディレクトリ (Directory)]



連絡先リストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り (Favorites)]の連絡先は自分で設定します。通常は、頻繁に通話する相手や、すばやく簡単に連絡を取りたい相手を指定します。

[ディレクトリ (Directory)]は通常、ビデオ サポート チームがシステムにインストールした社内ディレクトリです。

[発着信履歴 (Recents)]は、発信、受信、不在着信のリストです。

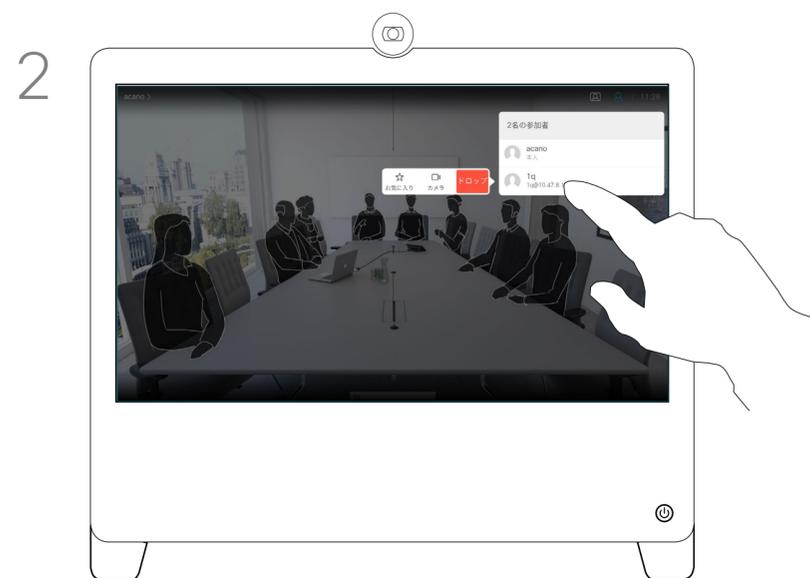
[発着信履歴 (Recents)]からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

連絡先
通話中に [お気に入り (Favorite)] に追加する

お気に入りについて



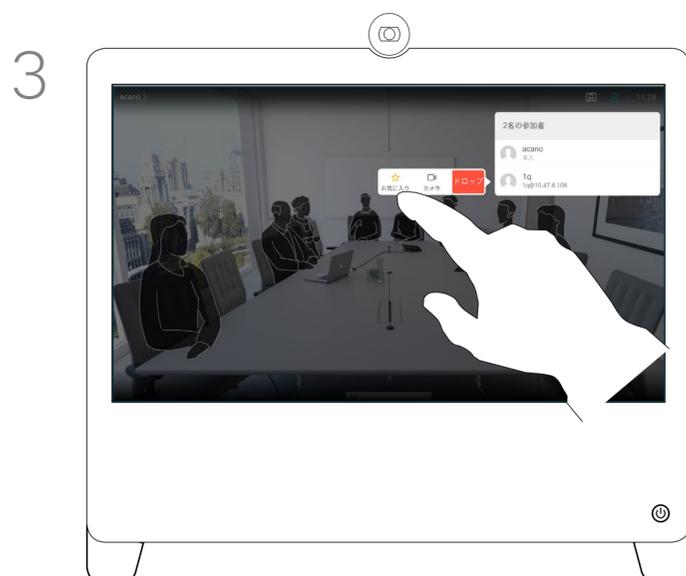
通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



[お気に入り (Favorites)] に追加する参加者をタップします。小さなメニューが表示され、参加者をドロップ (参加を終了) することも、その参加者を [お気に入り (Favorite)] リストに追加することもできます。

[お気に入り (Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

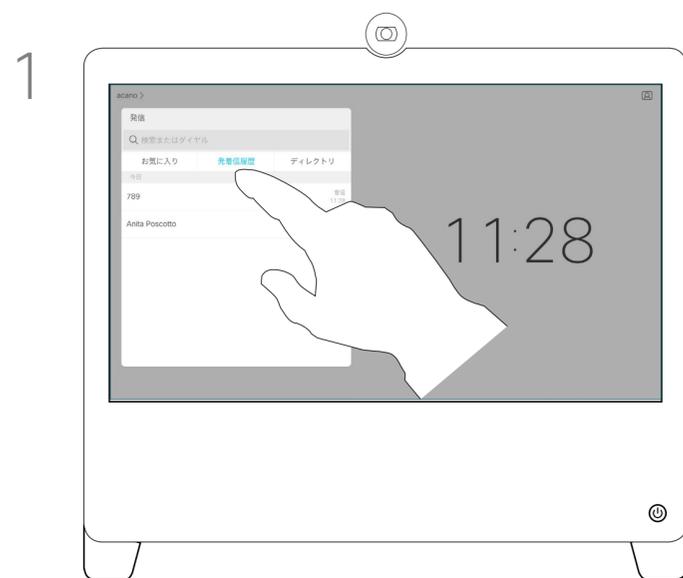
[お気に入り (Favorites)] は、[発着信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。



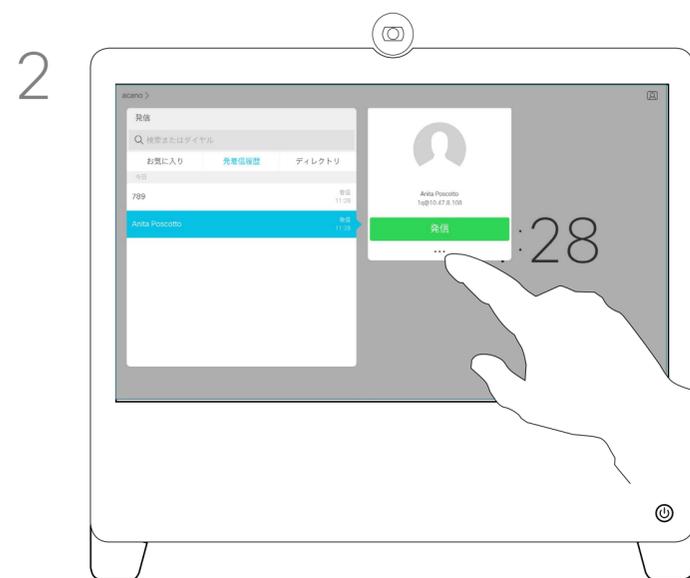
[お気に入り (Favorite)] をタップします。

連絡先 非通話時に [お気に入り (Favorite)] に追加する

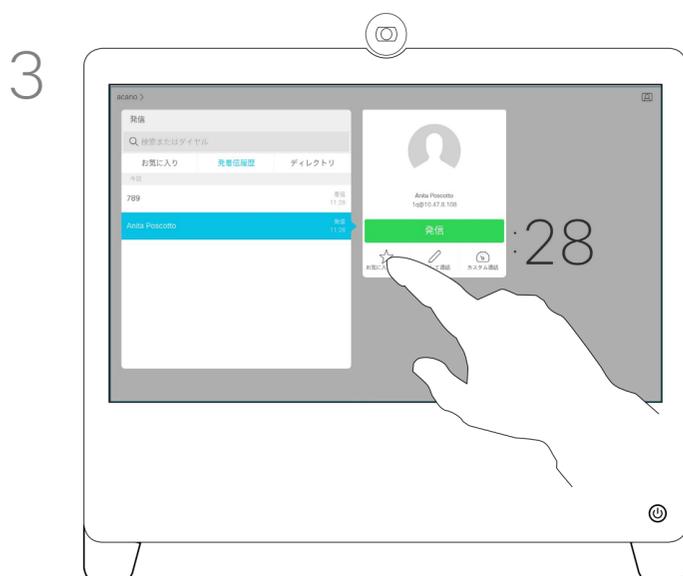
この機能について



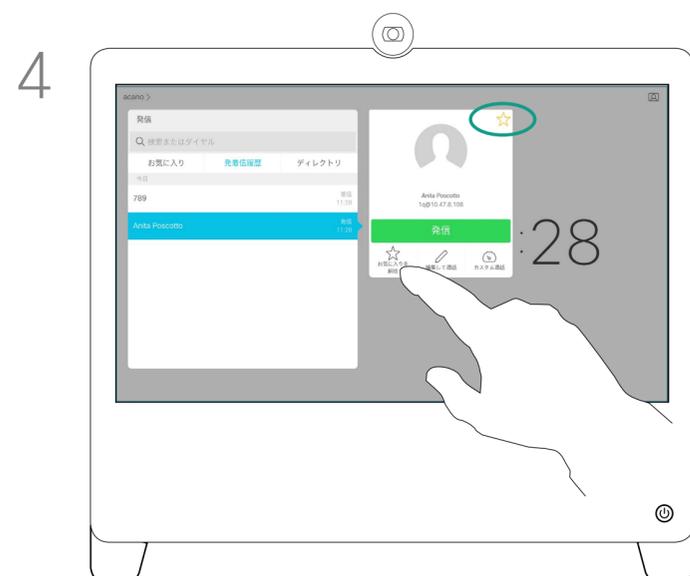
図のように、非通話時に [発信 (Call)] (図示せず) をタップして、[連絡先 (Contacts)] リストを呼び出します。[発着信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] をタップして、[お気に入り (Favorites)] に追加するエントリを探します。



[お気に入り (Favorites)] に追加する参加者をタップします。それによって上の画面が表示されます。緑色の [発信 (Call)] ボタンの下にある、その他 (...) アイコンをタップします。



[お気に入りとしてマーク (Mark as Favorite)] をタップします。エントリが [お気に入り (Favorite)] に追加されます。メニュー以外の場所をタップして終了します。



お気に入りは、図のように金色のスターで示されます。[お気に入り (Favorites)] リストからエントリを削除するには、[連絡先 (Contacts)] の中の [お気に入り (Favorites)] に移動して、この手順を繰り返します。

[お気に入り (Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

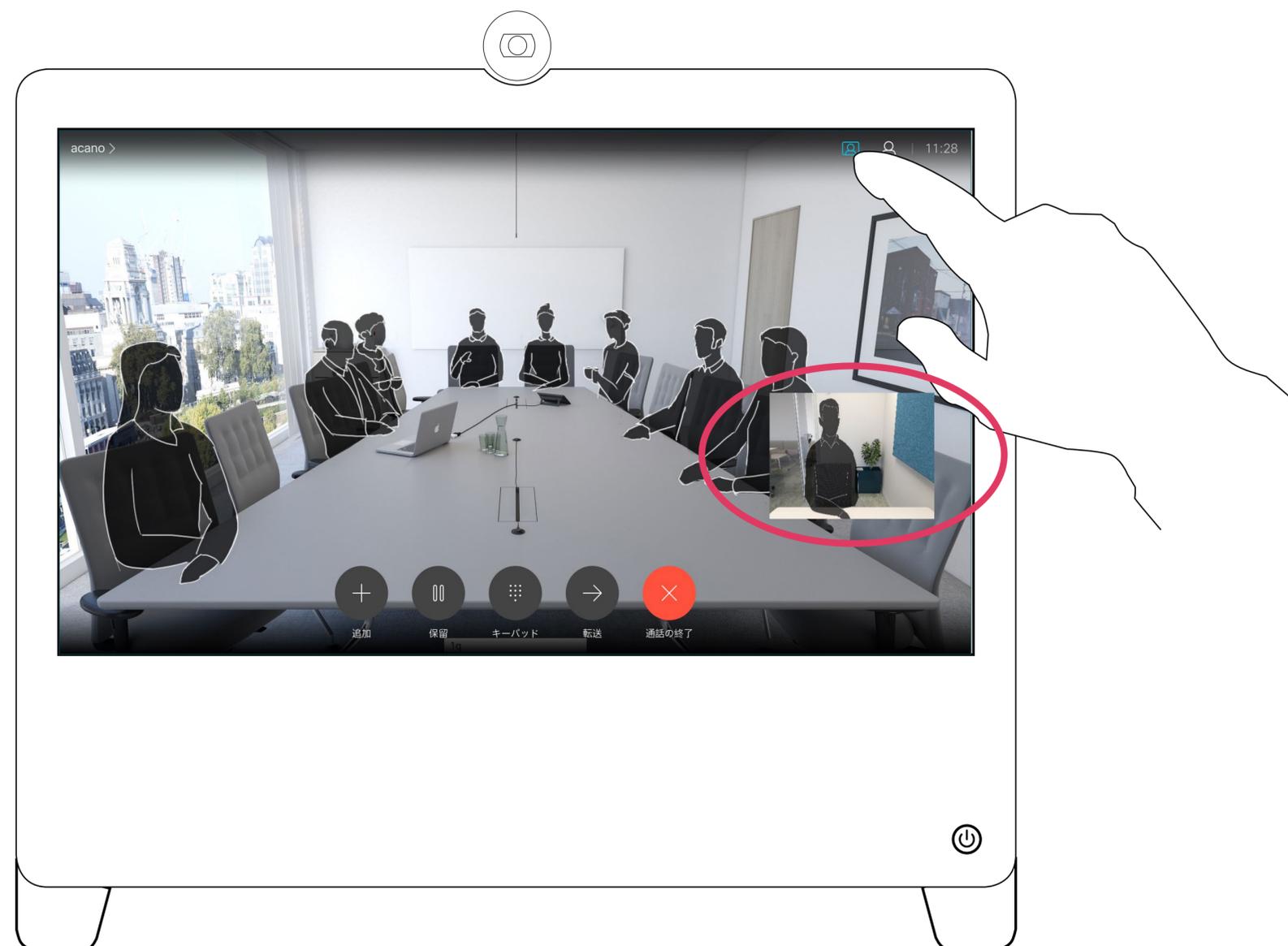
[お気に入り (Favorites)] は、[発着信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

手動で入力して [お気に入り (Favorites)] リストに追加するには、名前かアドレスを [検索またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドに入力します。詳細については、「[名前、電話番号、またはアドレスを使用して発信する](#)」、11 ページを参照してください。



カメラ制御

自画面のオン/オフの切り替え



自画面を使用する理由

自画面には、ビデオ システムから他者に表示される内容が映し出されます。通常は、目的どおりの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。

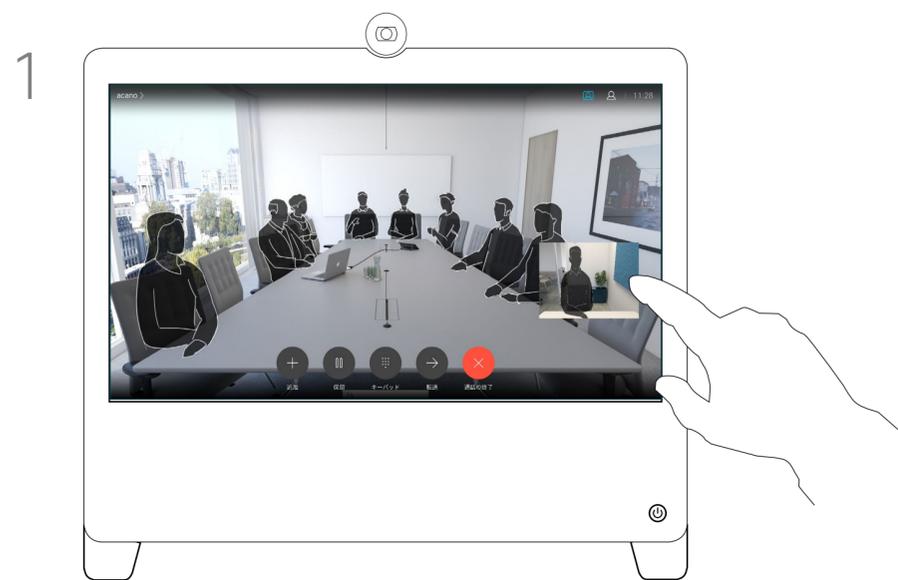
自画面は、PiP (ピクチャ イン ピクチャ) として表示されます。

会議中に、自画面を有効にしたい場合があります。たとえば、自分が画面に映り続けていることを確認するために使用できます。

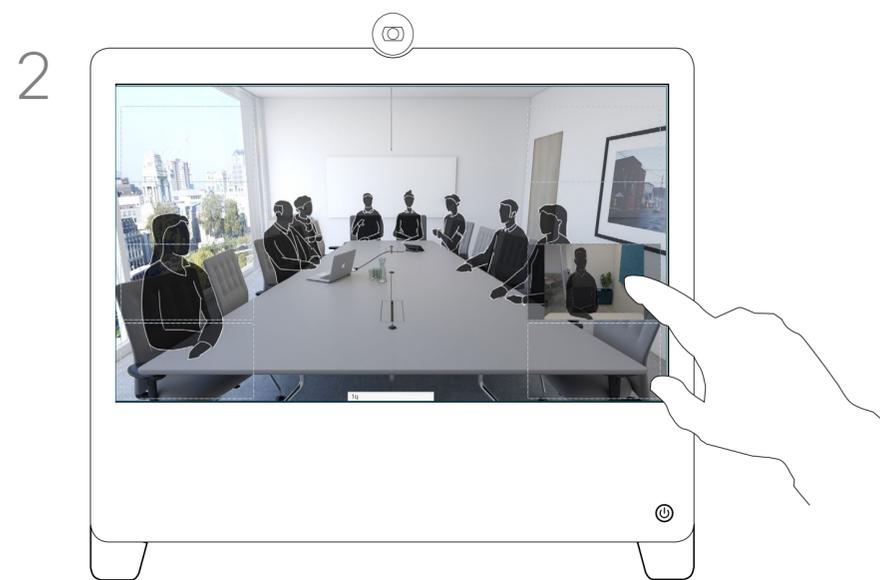
自画面をアクティブまたは非アクティブにするには、左に示すようにタップします。

自画面の現在位置によっては、画面の重要な部分を自画面が覆っているかもしれません。その場合は自画面を動かすことができます (詳細は次のページを参照)。

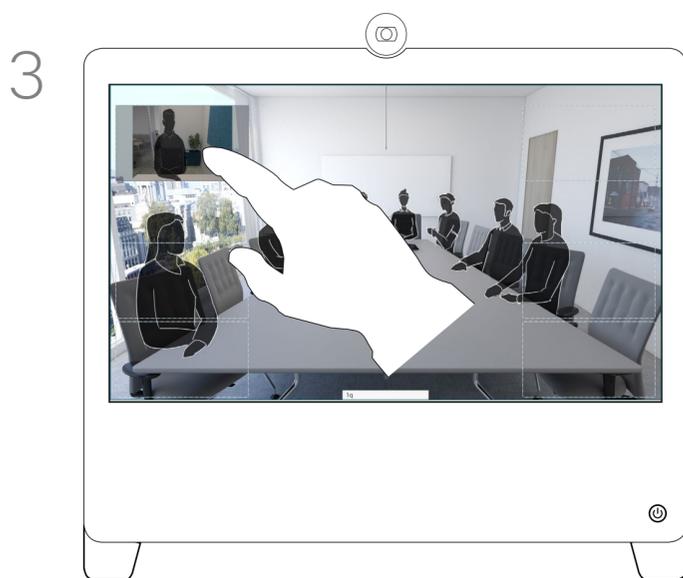
カメラ制御 自画面 PiP の移動



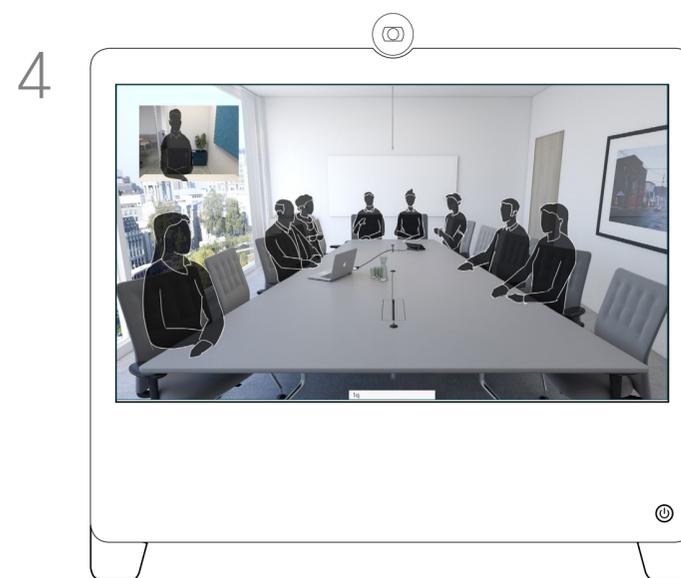
自画面の画像をタップしたままにします。



自画面の画像を配置できる別の場所を探します。画像をタップしたままにします。



画像を新しい位置にドラッグします。この例では、左上隅にドラッグしています。



画面から指を離して、画像をリリースします。これで、自画面の画像が新しい位置に配置されます。

自画面を移動する理由

自画面には、ビデオ システムから他者に表示される内容が映し出されます。通常は、目的どおりの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。

自画面は、PiP (ピクチャ イン ピクチャ) として表示されます。

会議中に、自画面を有効にしたい場合があります。たとえば、自分が画面に映り続けていることを確認するために使用できます。

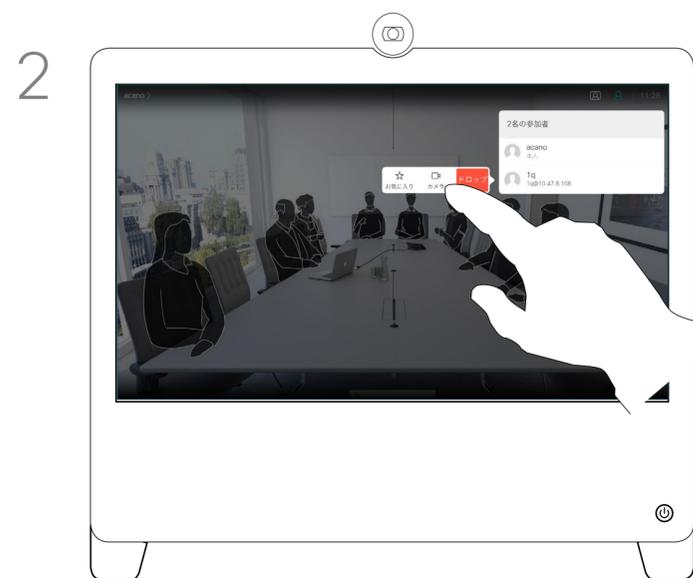
自画面の現在位置によっては、画面の重要な部分を自画面が覆っているかもしれません。このような場合、自画面を移動できます。

カメラ制御 遠端カメラ制御

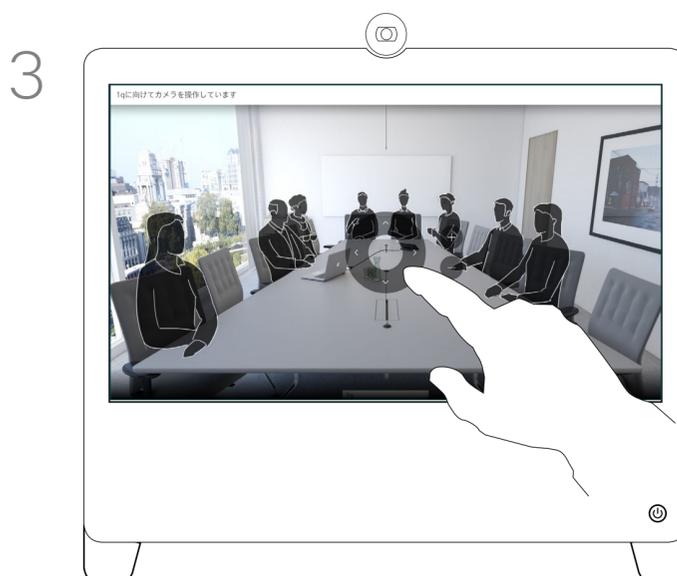
カメラ操作について



参加者アイコンをタップします。



カメラを制御する参加者をタップし、**[カメラ (Camera)]** をタップします。



必要に応じて、パン、チルト、ズーム コントロールを使用します。



終わったらコントロール以外の場所をタップします。

他の参加者のビデオ システムに、リモート コントロールできるカメラが含まれているビデオ通話に参加する場合があります。

このような場合、自分のビデオ システムからそれらのカメラを制御できます。これは遠端カメラ制御 (FECC) と呼ばれます。

遠端システムでカメラ トラッキングが有効化されている場合 (カメラが話者を追跡表示している場合)、FECC オプションは提供されません。



設定

設定 アクセス可能な設定の概要

設定について

このメニューにアクセスするには、左上隅の小さなアイコンをタップしてから、**[設定 (Settings)]** をタップします。お使いの DX70/DX80 の状態の概要が表示されます。

- ビデオ アドレス情報、IP アドレスと MAC アドレス、SIP プロキシおよび現在のソフトウェアのバージョンを表示します。
- Bluetooth を有効化/非アクティブします。
- 着信音を選択したり、着信音の音量を設定できます。
- 通話サービスを選択します。
- 有線およびワイヤレス (Wi-Fi) 接続を選択します。
- システムを再起動します。
- 工場出荷時 (デフォルト設定) にリセットします (図示せず)。



©2018 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は2018年6月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107 - 6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先